



輝け！OKB517



471名＋教職員46名

「一文字」に思いを込めて

校長 山本 邦彦

明けましておめでとうございます。希望と期待に満ちた一年が始まりました。皆さんも穏やかな新春を迎えられたことと思います。何より、当たり前のように食べ物があり、水があり、電気が通るといった心休まる生活環境の中で過ごせる日々感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、「一年の計は元旦にあり」と言われますが、教職員が今年の目標を漢字一文字で表し児童玄関にその一覧を掲示しました。選んだ一文字は以下の通りです。

「感」	「耕」	「動」	「休」	「嬉」	「鮮」	「続」	「和」	「挑」	「歩」	「想」
「確」	「進」	「生」	「努」	「即」	「縁」	「前」	「雪」	「落」	「初」	「添」
「成」	「新」	「心」	「小」	「笑」	「健」	「展」	「柔」	「整」	「楽」	「貫」

教職員一人一人の様々な思いや心意気が想像できる「一文字」となりました。ちなみに私が選んだのは「感」。「みんなが頑張っている姿を深く感じ取る。その努力や姿に感動する。いつも感謝の気持ちを忘れない。感染症対策をしっかりとる。」という意味が込められています。皆さんは、どのような「一文字」を選ばれるでしょうか。

今年の干支である「巳」という「一文字」にもたくさんの意味が含まれていることがWeb上で検索できますが、その中の1つを紹介します。

「巳」という字は胎児の形を表した象形文字で、子宮が胎児を包む様子が由来とされている。また、巳（へビ）が冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われています。このようなことから巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年と言われています。（HP「くらしいいの研究所」より）

また、「蛇」は脱皮を繰り返して姿を変えることから、変容や成長を意味するとも言われます。まさしく子供たちがこれから迎える3学期にふさわしい「一文字」です。3学期は、子供たちにとって今の学年のまとめと、次にやってくる学年の準備をする学期です。6年生にとっては自分たちの素敵な足跡を残し、中学校への準備をする。5年生にとっては、6年生から最高学年のバトンを受け継ぎ、リーダーを目指す。その他の学年にとっても、一つ上の学年に上がるための「土台」を完成させる大切な学期となります。子供たちには、始業式のあいさつで、「3学期にどんな自分になりたいか目標をもつことが大切ですね」と話しました。6年生は47日、1～5年生は50日と短い学校生活ですが、「土台」「起点」「変容」そして「成長」につながるよう、教職員一同全力で支援して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。